

1. 評価報告概要表

作成日平成20年 8月16日

【評価実施概要】

事業所番号	1070201114
法人名	社会福祉法人高崎市社会福祉協議会
事業所名	グループホーム一 路
所在地	高崎市片岡町3-26-8 (電話) 027-320-7007

評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成20年7月29日

【情報提供票より】(20年 7月 8日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 5月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 7人, 非常勤 2人	常勤換算 8.2人

(2) 建物概要

建物構造	木造造り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000 円	その他の経費(月額)	
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	300 円	昼食 300 円
	夕食	400 円	おやつ 100 円
	又は1日 1,100円		

(4) 利用者の概要(7月 8日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	2 名	要介護2	1 名		
要介護3	5 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.5 歳	最低 78 歳	最高 93 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人杏仁会 松岡病院 ・ 長谷川歯科医院
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

高崎市観音山下の護国神社の近くに位置している。周囲は、民家が密集しており、いきいきふれあいサロンの開催場所として提供する等地域との交流を活かした取り組みをしている。また、町内会会員で防災訓練など行ったり、年1回の入居者の作品展を開催するなど地域の連携を強めている。高崎市社会福祉協議会が事業主体となっているグループホームである。ケア能力の向上のため、職員の研修参加や近隣のグループホームとの情報交換や相互訪問などを行う等 意欲的な運営をしている。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価の改善課題について、「ホームだより」を作成し、毎月の請求時に配布し、近況等を報告する等具体的な取り組みをしている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者、職員は、自己評価について理解している。自己評価票を全職員に配布している。自己評価票の項目は、協議したものを具体的に記録し全員で共有し、日常の支援に生かせるよう改善を期待したい。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議では、地域との連携や災害対策について話し合い、それを活かした取り組みをしている。評価について話しているが、議題としては取り上げていない。今後、議題として自己評価や外部評価についての検討、懸案事項の取り組み状況や評価結果を報告し話し合いを行い、評価の効果をより高めるための改善経過のモニター役となってもらえるような取り組みを期待したい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月の家族の来訪時に、意見などを聞いている。また、苦情対応等の受付方法を、ホーム内に掲示している。運営推進会議では、家族等の意見を聞き話し合い、それらの意見を職員で協議し改善をして運営に反映している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、地域の清掃活動や行事に参加している。いきいきふれあいサロンには、場所を提供し地域の人と共に過ごしている。また、ホームの行事にも地域の方を招待している。長寿会の協力をいただき、入居者の作品展を年1回開催する等、地域との交流を活かした取り組みをしている。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時からの理念に基づき、その人らしく暮し続ける支援を実践してきている。現在、これまでの理念を見直し、地域で継続性のある暮らしを目標とした地域との繋がりを表した理念としている。	<input checked="" type="checkbox"/>	
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、日々の朝礼、ミーティング、引継ぎで、管理者と全職員が共有し、理念にある「～穏やかに自立した日々が過ごせるように、見守っていきます。～」の実践に向け、見守りながら手を添えるなど、何気ない介護方法について日々努力している。	<input checked="" type="checkbox"/>	
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、地域の清掃活動、盆踊り、春祭り、どんど焼きなど地域活動に参加している。また、近隣の方が野菜や花を届けてくれる。民生委員主催による一人暮らしの高齢者を対象にした行事に場所を提供したり、ホームのクリスマス会に招待をしたり、長寿会の協力により入居者の作品展を年1回開催する等、地域との交流を活かした取り組みを行っている。	<input checked="" type="checkbox"/>	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員は、評価の意義を理解している。前回の評価を活かして「ホームだより」を作成し、毎月の請求時に配布し、近況等を報告する等具体的な取り組みをしている。	<input checked="" type="checkbox"/>	
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、民生委員、長寿会、相談員、家族、市職員等の参加により2ヶ月に1回開催している。会議では、意見のあった排便のコントロールなどについて話し合いをしている。評価について説明しているが、議事録に議事の記載がない。	<input type="checkbox"/>	運営推進会議では、議題として自己評価や外部評価の検討や懸案事項の取組み状況や評価の結果を報告し話し合いを行い記録をし、評価の効果をより高めるための改善経過のモニター役となってもらえるような取組みを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域支援センターへの相談や紙おむつの申請、認定調査等の相談をしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月の支払いは家族に来所をお願いしており、来所の際に入居者の状態や近況等について「ホームだより」を渡して報告している。また、一人ひとりのアルバムを作成し、暮らしぶりを報告している。金銭管理は、所持している入居者もいるが、所持しない場合はホームで立替えレシート精算している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情対応等の受付方法を、ホーム内に掲示している。家族等の意見や苦情を運営推進会議などで積極的に聴き、ウォシュレットの利用などスタッフ会議で検討し、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	現在、職員の異動はあまりないので、入居者や家族と馴染みの職員が勤務している。増員になった新規採用職員の場合は、声かけを行い入居者の不安がないよう努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	8月に地域密着型サービス連絡協議会主催の交換研修に参加予定であり、また、介護福祉士と介護支援専門員の研修に参加を予定している。研修後は、職場内で話し合いを行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者・職員は、地域密着型サービス連絡協議会での相互交流や研修の他に、近隣の3ヶ所のグループホームと情報交換や相互訪問や見学などを行い話し合い、お互いのサービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に、本人を交えて見学してもらい、お茶の時間に入居者と一緒に過ごしてもらうようにしている。また、馴染めるまで家族が毎日夕方来所してもらうなど、入居者が不安を抱かないように家族と相談しながら支援に努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	小豆を煮たり、お饅頭を丸めたり、味付けを入居者に聞いたりして、入居者が上手に出来ることを教えてもらっている。また、日常の中で、「戸の開け放しはだめだ」とか、「話かける時は目が合うようにした方が良い」、「大きな声ではっきり簡潔に言うように」などと入居者は先輩であり教えていただいたことに感謝して支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者がどのように過ごしたいかは、時間をかけ場面場面で少し待ってみたり、会話の中で汲み取るようにして意向にそうようにしている。また、買い物に行きたい時などの表現方法を把握し誘導したり、コーヒーを飲みに行く、ラーメンを食べに行く等意志表示する入居者には、その意向に最大限そうように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者の状況や課題を、職員のカンファレンスのなかで把握し共有し、入居者と家族の要望を聞き、主治医の意見等を反映させて介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、3ヶ月毎に見直しを行い作成している。今まで入居者の重度な急変はなかったが、入居者の変化に対しては、その都度話し合いを持ち介護をしているが介護計画の変更をしていない。	○	介護計画は、入居者の状況変化に伴い家族との話し合いのうえで見直しを行い、全員で情報を共有するよう期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者の家が空家のため、心配で時々見に行きたいという希望に、車で同行するなど、家族や入居者の状況に応じて、外出、移送支援等を行っている。また、主治医の受診に付き添いや送迎をしている。医療連携体制の訪問看護などをすすめ柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者や家族の希望により、かかりつけの医師による継続的な医療が受けられるようにしている。また、グループホームと連携している病院により適切な医療が受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	今までに重度化や終末期の入居者がいなかったため、対応したことがない。今後、家族との話し合い、主治医との連携を取り方針を決めていきたい。	○	早い時期から重度化に伴う意志確認を入居者や家族と行うとともに、事業所が対応できるケアについて説明を行い、関係者全員で方針を共有できるように検討を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者に対する言葉かけは、プライバシーを損ねるような言葉かけはしてない。トイレ介助時は、必ず戸を閉めて行い、失禁時は、周囲に気づかれないように対応している。記録等の書類は、事務室で管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝ゆっくり寝ていたくて朝食を後で食べる人、字を書くことが好きで散歩に行かずに字を書いている人、気持ちのすむまでスタッフと歩いてくる人など、入居者が思い通りに過ごせるよう職員は希望にそった支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を常に心がけ、入居者の好き嫌いは日常の会話の中で把握し、食事を提供している。入居者と職員は、野菜の皮むきや下準備を一緒に行い、お茶碗の片付けは各自で行っている。職員も一緒に食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は週4日あり、基本的に週2回の入浴としている。汗をかいた時、失禁時、皮膚にかゆみがある時等は、その時々で対応している。また、夏場は随時シャワー浴も行っている。入居者の希望に合わせて、入浴日を変更できるなど楽しめるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	人にお茶を入れるのが好きな人にはお茶の当番してもらい、掃除や洗濯たたみの好きな人には手伝ってもらうなど一人ひとりの生活歴から把握したり、本人から聞きながら楽しみごとの支援をしている。また、字を書くのが好きな人には本人が好きな時に字を書けるように支援したりしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日午前中に散歩に出かけている。また近くのコーヒー店やパスタ屋に出かける入居者もいる。本屋へ行くと言って外へ出かけていく入居者を、職員が付き添って本屋を探しながら納得できるまで歩いて帰ってくる等希望にそって支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者、職員は、施錠の弊害については理解している。開設以来玄関に鍵をかけないできたが、不審者進入などの危険防止を警察の相談員より指摘され現在鍵をかけるようしている。1階が事務所と入居者の居室、2階が共用ルームとなっており、日中はほとんど2階にいるので施錠を家族も理解している。	○	入居者の保護や安全について何らかの方法を考えて、鍵をかけないケアに取り組むよう検討されたい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	2ヶ月に一度、避難訓練を行っている。消防署の指導を受け訓練している。災害時の水やパンなどの備蓄もしている。近隣との連絡網の体制が出来ており、昼夜を問わず災害時の協力が得られている。運営推進会議においても、災害時の地域の誘導や非難などの協力を得られるよう話し合っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は、月1回検討して見直しを行っている。1日1100カロリーを目処に、バランスの良い野菜中心にした料理にしている。各人の摂取量は、本人の意向に添うように盛り付けの量を変えている。水分は、常時摂るよう支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用のホールは広く明るく、台所とはカウンターで仕切られていて調理の音や匂いに触れられる。夏にはよしずを立てて涼しく過ごせるよう工夫している。1階の廊下には、入居者の作品が展示されベンチが4ヶ所備えられて、居心地良く過ごせるようにしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、テレビ、机、応接のソファなどが持ち込まれ、写真、カレンダー、入居者の作品が飾られている。エアコン、空気清浄機が備えられている		